2019
新春座談会

私たちにできるおもてなし、魅力発信
～オリンピック開催地として～

いよいよ来年、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。この大会の自転車競技ロードレース（男子）では、国道469号線を御殿場市から裾野市内に入り、須山支所交差点を北上、忠ちゃん牧場西側道路から富士山資料館経由で南富士エバーグリーンを通過し、富士山スカイラインを御殿場市に抜けていきます。

オリンピック開催地として私たちにできるおもてなしや魅力発信について、事業者・元競技者それぞれの立場でできることや今後の展開について語り合ってもらいました。

自転車競技ロードレース（男子）
とき／2020年７月25日㈯
スタート／武蔵野の森公園
ゴール／富士スピードウェイ

座談会参加者（順不同）

●**早川 優さん**
市観光協会副会長
株式会社フジヤマリゾート代表取締役社長

●**堀口 綾子さん**
市商工会女性部部長
和風れすとらん「みよし」若女将

●**飯島 誠さん**
自転車競技オリンピアン（シドニー・アテネ・北京大会出場）
ブリヂストンサイクル株式会社

●**髙村 謙二**
裾野市長

2019　新春座談会

ロードレースのコースに決定
機運の醸成のためにできること

市長▶まず、自己紹介を兼ねて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会自転車ロードレース男子で当市がコースの一部に決定した気持ちをお話しください。

早川▶株式会社フジヤマリゾート代表取締役社長の早川優です。ロードレース男子のコースが市内を経由することに併せ、弊社が管理運営している南富士エバーグリーンラインがコースの一部になったことは、社員一同、驚きとともに非常に光栄なことだと受け止めています。同時に、オリンピックに向けフジヤマリゾートとしても機運を盛り上げていきたいと強く思いました。

市長▶市としても、開催都市に名を連ねることができたことで、大きなプレゼントをもらったという思いです。

早川▶エバーグリーンラインは、かなりの上り坂なので、個人的にはコースとして選ばれるとは思っていなかったため正直驚きました。

堀口▶須山小学校あたりから富士山へ向けて、ずっと上り坂ですからね。

早川▶毎日、車で通勤していますが、車でも大変な坂道を自転車で上るのですよ。選手は本当にすごいのだなとつくづく思います。

市長▶今、コースや選手の話が出てきましたが、飯島さんは自転車競技の元選手で、現在は講演などもされているのですよね。

飯島▶はい。ブリヂストンサイクル株式会社の飯島誠です。2010年まで選手をしていて、シドニー、アテネ、北京のオリンピック三大会に出場させていただきました。北京のときは37歳で、スポーツ選手としてはベテランといわれる年齢でしたが、８位に入賞することができました。現役引退後、ブリヂストンサイクルに入社しました。現在は、主に自転車競技に関する講演会などを通じ、自転車競技の啓発や、自転車を文化として普及させていく活動などの仕事をしています。併せて、より多くの皆さんにオリンピック・パラリンピックの魅力や大会後のまちづくりを知ってもらえればと活動しています。11月６日は市内の小・中学校で講演を行いました。

須山中での自転車教室の様子

市長▶市民の機運高揚にもご協力いただきまして、ありがとうございます。
さて、楽しむことや楽しませることを、いろいろ仕掛けてくださっている堀口さん。すでに何かアイデアをお持ちなのではないですか。

堀口▶和風れすとらん「みよし」若女将の堀口綾子です。市商工会女性部の部長を務めています。オリンピックは遠い存在に感じていましたが裾野市が開催地になったことで、私にとっては身近なものになりました。これから自分たちのできることを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

市長▶市商工会女性部の皆さんを率いてのエコマルシェなどの開催で、女性の持つ感性とパワーに心強さを感じています。また、先日開催の県商工会女性部主張大会では最優秀賞を受賞されましたよね。

堀口▶ありがとうございます。日頃の活動やみんなの思いを代弁しただけなのですけどね。そんな仲間たちと、裾野市を感じてもらえるようなイベントなどをつくっていきたいと思っています。一生に一度あるかないかのオリンピックという一大イベントに、傍観しているのはもったいないと思うのです。参加してもらう方たちはもちろん、私たちも一緒に楽しめるようなものをつくっていけることを考えるとワクワクします。

エコマルシェの様子

市長▶オリンピックに向けての企画を楽しみにしています。市としても協力できることは精一杯協力させていただきます。
では、最後に私。裾野市長の髙村です。昭和39年、東京オリンピックの年に生まれました。オリンピックに対して運命的なものを感じてしまいます。市としても、裾野を訪れてくれた方々には印象に残るおもてなし、アスリートの皆さんにはベストタイムを出せるような環境を整えなければと思います。期待と不安もある状態ですが、市民の皆さんや企業の皆さんと力を合わせて、開催に向けて準備を万端に整えていきます。

飯島▶早川社長にお伺いしたいのですが、エバーグリーンラインがコースに決まった時はどのような心境でしたか。

早川▶コースが決まった瞬間は本当に嬉しかったです。ただ、不安もあります。もう40年以上使用している道路です。冷静に考えてみると、自転車レースを開催するための整備が必要なのではないかと。

市長▶市道も同様です。路肩の崩れや、道路側溝、路面の状況など、環境の整備対策が必要ですね。

早川▶オリンピックの競技なので、世界中から一流の選手が集まります。安全面が担保され、きちんと競技の運営が行われなければいけないと考えています。コース整備については、オリンピック組織委員会と今後の役割分担についてしっかり話し合いたいと考えています。まずはこれらを早目にクリアして、機運を高めて盛り上げることにも注力したいです。

市長▶市としてもスピード感を持って、環境の整備や情報発信を行っていきます。

コースは過去最難関

堀口さん

堀口▶飯島さんは、選手時代に国内外のレースに出られていたと思うのですが、路面の状況も重要な要素ですよね。

飯島▶もちろんです。海外のコースに比べ、エバーグリーンラインの路面は比較的きれいだと思います。普通に車が走れる状態でしたら大丈夫でしょう。ヨーロッパのレースでは特別な整備はそれほど行っていません。穴やくぼみ、車輪が挟まってしまうようなひび割れがあると、問題はあると思いますが、基本的には大丈夫だと思います。ただ、下り区間は時速100キロメートル近く出ることもあるので、細かな補修が必要かもしれません。下り区間がある市町は大変かもしれません。

堀口▶自転車でもそんなにスピードが出るのですね。怖くて想像もできないです。

飯島▶今回のコースはかなりのスピードが出る区間がありますね。きちんと整備された競技用の自転車で、一流の選手が運転すればスピードが出ても安全に走ることが可能です。

市長▶エバーグリーンラインは下り区間に比べれば、細かなところの整備までは必要ないかもしれませんね。

飯島▶上り区間は、恐らく時速20キロメートル前後でレースが推移すると思われます。ゆっくりと観戦するには上り区間がいいですね。ロードレースでは、上り区間でドラマが生まれます。観戦する側も選手間での駆け引きにおいても、レース本番ではエバーグリーンラインがまず１回目の山場になるでしょう。そしてゴールを前にした激坂の三国峠が最大の山場になると思います。市内のコースは後半にかけて体力的にダメージを与える感じですよね。

市長▶序盤戦の市内の上り坂が後になってボディーブローのように効いてくるのですね。

早川▶レースは７月に行われるので、気温も湿度もさらに選手を苦しめますね。

飯島▶ロードレースの盛んなヨーロッパは夏もカラッとしているので、ヨーロッパの選手にはきついはずです。

堀口▶雨が降ると、さらにじめじめしますね。天候に恵まれることを祈ります。

飯島▶今回のオリンピックレースは過酷になることは間違いないです。過去最高にきついコースではないかなと思います。

堀口▶過去最高に過酷だということは、応援にも熱が入りますね。

飯島▶今回はスタートが東京で、ゴールが富士スピードウェイです。オリンピックでは珍しく、ワンウェイのラインレースと捉えられます。今までオリン

ピックのロードレースの多くは周回コースがメインでした。そういう意味でも、世界中がこのコースに注目しています。本当に実力がある選手が勝つことになるでしょうね。

堀口▶やっぱりすごいですね。距離も長く、ハードですよね。

飯島▶そうですね。最初の10キロメートルのパレードランを含めて244キロメートルです。裾野から東京までを往復できるくらいの距離になります。

早川▶長いように感じますが、ロードレースやオリンピックコースとしては平均的な距離なのですか。

飯島▶そうですね。オリンピックでは250キロメートルの距離設定が多いです。

キーワードは“おもてなし” 裾野の魅力を伝える

市長▶皆さんは実際に自転車ロードレースをご覧になったことはありますか。

堀口▶興味はありますが、見たことはないです。ロードバイクを２年前に購入し、時間があるときは乗っています。

飯島▶堀口さんも自転車乗りなのですね。仲間が増えることは嬉しいですね。

飯島さん

堀口▶オリンピックコースが決定したためか、最近市内でも自転車で走っている方がすごく増えている気がしますね。

飯島▶今までも、それなりにはいたと思いますが、気にしていなかったというか、気が付かないのでしょうね。オリンピック・パラリンピックが裾野に来るということで、皆さん少し自転車のことが気になり始めているのだと思います。関心を持つことが、レガシーづくりの第一歩だと思います。いろいろな携わり方があって当然です。それをここから、少しずつ皆さんで探し出していくというのも、また楽しいですね。

堀口▶楽しいですね。今まであまり携わったことのない自転車の世界。知ることで楽しみが増えますし、そこに自分がどう関わっていけるのか。何か積極的に向かい合いたいという気持ちはあります。ハード面は難しいかもしれませんが、ソフト面で来てくれた方が笑顔になるようなことを考えたいです。

飯島・早川・市長▶おもてなしですよね。

堀口▶おもてなしをキーワードにですよね。私たちも海外旅行に出かけて、現地の方が笑顔で迎えてくれたり、声をかけてくれたりしたら、言葉は通じなくともうれしいですよね。

市長▶飯島さんは、海外のレースに出場したときに受けたおもてなしで印象的だったことはありますか。

飯島▶温かく迎えていただけるだけでもすごくうれしいのですが、やはり訪れた街の方々と話しをしたときに、自転車競技に対する関心が高いとうれしいですね。

早川▶そうなると、私たちも自転車や自転車競技に関心を持ち、ロードレースの楽しみ方を知ることが大切ですね。

市長▶先日、市内の自転車愛好者による自転車のイベントが開催されました。マナーや初歩的なところから勉強するためのコーナーを設けてくれていました。このようなことの積み重ねが大切なのだと思いました。おもてなしの心については裾野市民は温かい人が多いので、私はまったく心配していません。

飯島▶私も学校訪問やイベントへの参加を通して、市民の皆さんの暖かさを感じることができました。これからも私たちにできることはたくさんあると思います。

堀口▶裾野を気に入ってもらい、繰り返し裾野に訪れてもらいたいですね。

早川▶お店を営む中で、おもてなしの部分というのは、どのように考えていますか。

堀口▶富士山が世界遺産になってから、海外からのお客さまのご来店が増えています。多様化するニーズにできる限り寄り添い、細かく応えられるように心がけています。せっかく裾野を訪れてくださったのだから、裾野のことをより多く知ってほしいです。お料理でのアピールはもちろんですが、写真スポットを作って自転車で回ってもらえるような仕組みを作り、裾野を広く知ってもらいたいです。自転車イベントとマルシェのコラボ開催なども見据え、前向きな気持ちでアピールしていきたいです。

早川▶すっと一歩が踏み出せるというのは非常にすばらしいですね。裾野市の女性にパワーと勢いを感じますね。

市長▶市民の力、女性のパワーを活用させていただき、官民一体となってイベントの企画や裾野のアピールを行いたいですね。

堀口▶私たちが挑戦したいことに市職員の皆さんが一所懸命下地づくりをしてくれます。それがあるからこそ私たちが活動できるのです。一緒に積み上げていくことが成功につながると思っています。

世界に発信したい 裾野から見る富士山の魅力

早川▶観光協会としても、オリンピックを機会に裾野市の観光を発信するため、何かやらなければという機運はあります。私は、コースを選手たちが走っている光景を想像したときに一番絵になるのは、富士山を正面にする裾野のコースだと思います。富士山を目指して激走する選手たち。それが全世界に発信される。きっとすばらしいですよね。

飯島▶海外の方がたくさん来て、どんどん情報を世界各地にSNSなどで自ら発信してくれます。このチャンスを生かして裾野市を世界に知ってもらいたいですね。

髙村市長

市長▶千載一遇のチャンスですよね。

飯島▶SNSなどの普及で情報の拡散するスピードが、10年前と比べて圧倒的に速くなっています。また、旅の形も変わってきていて、情報を元に自分で旅を作る方も多くなってきていますよね。

堀口▶裾野は本当に自然に恵まれています。私たちが見慣れ過ぎていて見落としているかもしれないですね。選ばれる裾野市でありたいですね。

飯島▶初めて訪れると感動だらけですよ。

堀口▶そこに住んでいると当たり前になってしまい、つい見過ごしてしまう。市外からいらした方から言われ、こんな宝があったのかと気づかされることもありますよね。

飯島▶私は市外に住んでいるので、富士山を間近に見ると感動します。先日も富士山の写真を撮りました。朝もきれいですが夕焼けもすごくきれいですね。SNSに上げたくなる美しい景色でした。

早川▶やっぱりそうですね。雄大な富士山やパノラマロードといった観光資源を世界に向け繰り返し発信していきたいと思います。

早川さん

応援の仕方は千差万別 選手とともに盛り上がる

堀口▶ロードレースの応援のイメージがないのですが、観客はどのような感じで応援されるのですか。

飯島▶今回の大会はどのようなルールになるか分かりませんが、競技の応援の仕方も決まったものはありません。人それぞれの応援の仕方があります。海外のロードレースでは、バーベキューなどを楽しみながら応援している人もいれば、コスプレをして、選手と一緒に山道を走りながら応援する人もいるくらいです。

市長▶市民の皆さんはどこでどう応援したらよいのかルールが分からない方が多いと思います。観戦のルールを学ぶことも必要ですね。

飯島▶基本的には、座席が用意されていない限り、自転車レースは無料です。ツール・ド・フランスでも、スタート地点とゴール地点のところに有料観覧席がありますが、沿道は無料です。

市長▶無料なら多くの方に応援に来てもらいやすいですね。

飯島▶そうですね。ただ、スピードの出る下り区間は基本的に観戦禁止です。選手も危険な区間ですからね。観戦ポイントはどこですかと聞かれれば、間違いなく上り区間です。

堀口▶その方が安全でゆっくり見られますね。

飯島▶本当に裾野市は一番の観戦ポイントなのです。

レガシーづくりへ 一人一人が主役

市長▶皆さん、積極的なお話をありがとうございます。最後に、オリンピックの開催に向けてそれぞれの立場で、今後の夢や目標を一言ずつお願いします。

早川▶市内外の方に自転車コースとして認知されるよう強く発信していきます。エバーグリーンラインを、オリンピック後もロードレースの会場になったことを生かし、イベントを企画したいです。市全体や地域全体を活性化できるような役割や働きかけを行っていきたいと考えています。

飯島▶まず、ブリヂストンサイクルとしてはオリンピック・パラリンピックで所属選手がメダルを獲れるよう頑張ります。また、この地域を自転車の街にしていきたいです。それを大きなゴールとします。レガシーの一歩として、より多くの方々に興味や関心を持ってもらうところから協力させていただきたいと思います。

堀口▶ロードレースやオリンピック全体の魅力の発信のため、皆さん一人一人に一緒に盛り上げようという声かけからまず始めていきます。それをきっかけに市民として何ができるのかをみんなで考え、実行し、盛り上げていきたいと思います。

市長▶まずは、準備万端、大成功におさめられるように大会運営の準備をしっかりしていきます。今、シビックプライドと言っていますが、地域への、郷土への誇り、愛着をまちづくりの原動力にしたいなと思っています。オリンピック・パラリンピックをきっかけにシビックプライドが醸成されていくことを最終的な目標にしています。今後ともよろしくお願いします。

2020年に向けて　年頭あいさつ

裾野市長
髙村 謙二

明けましておめでとうございます。輝かしい希望に満ちた新春を健やかにお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

本年４月30日をもって天皇陛下は退位され、５月１日には皇太子徳仁親王殿下が即位され新たな元号と共に新しい時代の幕開けを迎えます。平成を振り返りますと皆さまそれぞれに感慨深いものと思います。

昨年、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会自転車ロードレース男子のコースが正式決定され裾野市がコースの一部として選ばれました。市内のコースは標高約1,500メートルの水ヶ塚公園付近まで標高差が約900メートルあり、過酷ではありますが最も見ごたえのある区間となっています。加えて随所で雄大な富士山の姿を存分に堪能していただけますので、国内外の多くの皆さまに裾野市を知っていただける、あるいは訪れていただけるチャンスと捉え、競技環境の整備、機運醸成を図り、裾野市だからこその“おもてなし”と“レガシーづくり”に市民の皆さまと一緒に取り組んでまいりたいと考えております。さらに2020年は深良用水通水350周年、2021年１月１日には市政施行50周年の節目を迎えます。市民の皆さま自らが祝え、「シビックプライド（まちへの愛着や誇り）」を持って主体的にまちづくりに参画していただくためにも、市民の皆さまが自ら作り上げていく市民協働による手法によって、2020年に向けて準備を進めてまいります。

今後も市民協働・戦略的情報発信・広域連携の視点に立って、「みんなが誇る豊かな すその」の実現に向けて「まち・ひと・しごと」づくりを進めてまいります。

結びに、皆さまのご健勝、ご多幸と新たな時代に向けて大きな飛躍の年になりますことを心からお祈り申し上げまして年頭のあいさつといたします。